新春インタビュー
近藤区政20年、そして次へ

2007年の足立区長選挙で初当選した近藤やよい区長。それから連続5期区長を務める、今年の6月20日には区政を担って20年目となる。これまでの様々な出来事や、今後の区政運営について伺った。

20年経った気がしない

――あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いします。近藤やよい区長　おめでとうございます。よろしくおねがいします。

――今年6月で20年目に入ります。20年間区政を担うということは大変なことだと思います。

長くやっていないとできないこともあると思うので、ありがたいですね。これまがりは自分がやりたいと言っても、4年に1回選挙があるわけで。――足立区政にとっても20年区長をやっているはいないのでは。

古性区長が4期16年されました。20年と二口に言っても、おぎゃあと生まれた子どもが20歳になる。それを思うと、その長さというか責任の重さをひしひしと感じます。今年の「二十歳の集い」の実行委員の子どもたちにも「僕たち物心ついてから区長といえば近藤さんしか知りません」と言われて、率直にどこ1回選挙があるわけで。自分では20年も経った気がしないです。

今までを振り返って

――区長として約20年間区政を担い、良かったこと、辛かったこと、嬉しかったこと大変だったことなどお話しいただければと思うんですが。

一番嬉しかったのは、就任してから日も経たないうちに東京電機大学（以下、電大）の誘致が決まったことです。まちづくりの核となるものがずっと欲しいなと思っていました。例えば綾瀬のぐるぐる（あやセンターぐるぐる）では年間10のやりたいことが叶っているわけですけど、それは関わっている人に見えてるんです。そこで例えば区民の方には全く見えないと思うんですね。高齢者には何を支援するとか、やりたいことにつながるのか、やりたいことが叶うということが区民の発展の原動力、それをお題目じゃなく、具体的に一つ出していきたいなと。それは国の言うことどもまんなか社会」というものも見据えていかなきゃいけませんので、それが一つですね。あと昨年末にPTを立ち上げた、外国人への7アローチ。区の人口の6%を超えてきているというのは、都の平均を見ても大きいみたい。

――足立区がですか。

そうです。6%を超えると、ほぼごみの問題がよく言われてるんですよね。今まで地域の町会・自治会におんぶに抱っこで対応をお願いしてきた、そこに区が入っていたが、地域だけではお互いが安心できる関係を築けないところまで来ているんじゃないかと。そこで副区長をトップとして生活ルールや、税・保険の問題とか、横串にさして対策を立てていこうと。それについては少し具体的にお出しして、外国人への実態調査でも、「差別しないでほしい」とか、「自分たちが浮いているんじゃないか」とか、不安もお持ちのようなんですね。だから間に入って繋いでいく。通訳をしていく。きれいごとかもしれないとは思いますけれど。1人が何か突拍子もないことをしちゃうと、みんながみんなって感じてしまいがちですね。また、まちづくりがどんどん進んでいくのとは思いますが、大局的で、変化という意味ではまだまだ伸びしろ、可能性だとか懐の深さだとか柔軟性だとか、これからも区民の皆様の期待に沿っていけると思います。

――70万区民を見ていかなきゃいけない、本当にこれは重責で、何をやるにも大変だと思います。

そうですね。10人いたら10人が賛成してくださるなんてことはないので。毎年8月にやっている区政の世論調査、区政に対する満足度が過去最高になって80%超えたんですけど。8割、ありがたいなと思って。

――それはそれで心配になるのでは。

ご満も色々ありだろうね。――地元出身区長として、区政の皆様の期待に応えれば受け止めてきたつもりですが、大局的には受け止めてきたつもりですが、それはだけているのではと考えているのですが、それは職員の自信にもつながると思うんです。今特に23区の自治体間競争が激しいので、そういう中で常に区民の皆様に届く施策を打っていくということの確認にはなるんじゃないかなと。国の地方交付金の使い道についても「おこめ券は絶対にいらないよ」という「区民の声」が圧倒的に多いです。ところが国の説明会を聞くと、国はおこめ券ありきの説明ですしね。――報道でも、明日にでももらえるように聞こえたりもしますしね。

昨年の仕事納めの12月26日に補正予算をお認めいただきましたので、1日でも早く皆様に支援を届けられるよう取り組んでいます。

――わかりました。ありがとうございました。

やりたいことが叶うまち

――いや、それは加齢現象者ですから（笑）。ではとや嬉しかったこと、辛かったこと大変だったことなどお話しいただければと思うんですが。

今大きく2つあって、1つは昨年から新しくなった足立区基本計画の『やりたいことが叶うまち』。これを高齢者とか単身者とか、子ども世代に分けて、具体的に少し出していきたいなと。例えば綾瀬のぐるぐる（あやセンターぐるぐる）では年間10のやりたいことが叶っているわけですけど、それは関わっている人に見えてるんです。そこで例えば区民の方には全く見えないと思うんですね。高齢者には何を支援するとか、やりたいことにつながるのか、やりたいことが叶うということが区民の発展の原動力、それをお題目じゃなく、具体的に一つ出していきたいなと。それは国の言うことどもまんなか社会」というものも見据えていかなきゃいけませんので、それが一つですね。あと昨年末にPTを立ち上げた、外国人への7アローチ。区の人口の6%を超えてきているというのは、都の平均を見ても大きいみたい。

――足立区がですか。

そうです。6%を超えると、ほぼごみの問題がよく言われ